

「しびれ+脱力」がある、関節ではなく筋肉そのもの

として次のような体調の変化で気づくことがあります。

**しびれ(感覚異常)**  
 ・(ヒリヒリする軽いしびれから眠れないほど強いしびれまで幅広い)  
 ・(脱力(力が入らない))  
 ・(ベットボトルの蓋が開けられない/だんだん腕が重くなり上がらなくなる)  
 ・(階段や段差が上がれない/歩くとすぐ疲れる)  
 ・(鈍く嫌な痛み/筋肉痛が長期間続く)  
 ・(眼の症状)  
 ・(物が二重に見える/まぶたが下がる)  
 ・(言語の異常)  
 ・(ふれつが回らない/しゃべりづらい)

■**多発性硬化症**(脳や脊髄に炎症が起こり、視力低下、しびれ、歩行障害などが生じる)

■**視神経脊髄炎**(視神経や脊髄に炎症が起こり、視力障害や手足の麻痺が起こる)

■**重症筋無力症**(神経筋接合部に異常が生じ、まぶたが下がる、腕が上がらないなど筋力低下がみられる)

■**自己免疫性脳炎**(脳そのものが炎症を起こし、意識障害、けい

れん、精神症状などが現れる)

**早期診断が安心につながる一歩に**

神経免疫疾患の研究は大きく進歩し、原因となる抗体が次々と発見されています。かつては同じ病気と考えられていたものが、現在では別々の疾患として分類されるようになり、10年前の知識がそのまま使えないほど病気の理解が深まっています。

診断には、脳や脊髄の炎症を確認するMRI検査や、特定の自己抗体を調べる血液検査などが重要な手がかりになります。神経免疫疾患は、病変が生じる場所によって症状が大きく異なるため、診断には専門的な知識

が求められます。

治療は近年、特に大きな進歩を遂げています。免疫の働きを抑える薬に加え、異常な免疫だけを狙う新薬も登場し、再発を大幅に抑えられるようになりました。治療指針が整理、洗練され、神経免疫疾患は再発を抑えながら様々なライフスタイルを保持できる時代になっています。

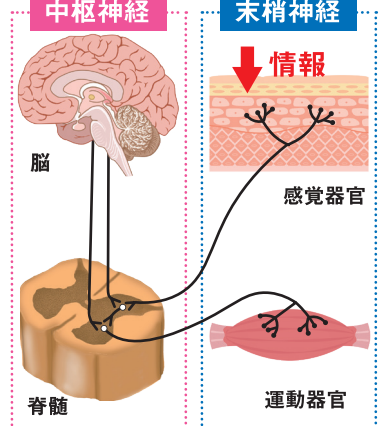
脳神経内科は神経免疫疾患のほか、脳卒中、パーキンソン病、認知症など多様な神経疾患に幅広く対応しています。気になる症状や不安があるときは、早めにご相談ください。お気軽にご相談ください。

# 健康医療ナビ

なるほど! 知っ得

## 免疫の誤作動で神経が攻撃される 神経免疫疾患

しびれやふらつきといった不調は、「年のせい」と見過ごされがちですが、その背景には神経と免疫の働きが影響する神経免疫疾患が潜んでいることがあります。神経と免疫の関わりについて、いちほら病院(つくば市大曾根) 副院長で脳神経内科部長の石井一弘先生に話を聞きました。



末梢神経(入力系・出力系)の神経に異常が生じると、しびれや麻痺、歩きにくさなど、感覚や動きにさまざまな不調が現れます。さらに、脳などの中枢神経に障害が起こると、「言葉が出にくい」「文字が書けない」「動作がぎこちない」といった症状につながります。

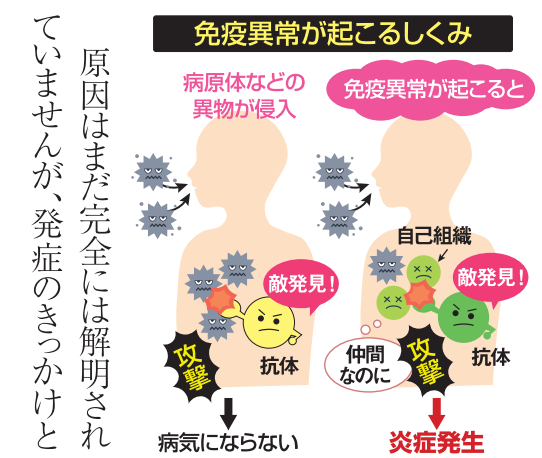
こうした神経の病気を専門的に診断し、治療するのが脳神

「感じる・動く・考える」を支える神経のしくみ

手足を動かす、考える、感じるといった日常の動作は、神経が正しく機能していることで成り立っています。神経の働きは、大きく「感じ取る役割」と「体を動かす役割」の2つに分かれています。これはそれぞれ入力系・感覚」と出力系(運動)と呼ばれ、互いに連携しながら体をコントロールしています。

■**入力系(感覚)**  
 感覚器(目・耳・鼻・舌・皮膚)から得た情報を瞬時に集め、脳に伝える神経

■**出力系(運動)**  
 脳からの指令を筋肉に伝え、体を動かす神経



原因はまだ完全には解明されていませんが、発症のきっかけと

**神経が攻撃される**

標的が自分の神経になった場合、脳や脊髄、視神経、末梢神経などが攻撃され、「神経免疫疾患」を発症します。初期の症状

「感じる・動く・考える」を支える神経のしくみ

手足を動かす、考える、感じるといった日常の動作は、神経が正しく機能していることで成り立っています。神経の働きは、大きく「感じ取る役割」と「体を動かす役割」の2つに分かれています。これはそれぞれ入力系・感覚」と出力系(運動)と呼ばれ、互いに連携しながら体をコントロールしています。

■**入力系(感覚)**  
 感覚器(目・耳・鼻・舌・皮膚)から得た情報を瞬時に集め、脳に伝える神経

■**出力系(運動)**  
 脳からの指令を筋肉に伝え、体を動かす神経

私たちの体には、細菌やウイルスなどの外敵から身を守るための「免疫」という仕組みがあります。免疫は本来、外敵だけを攻撃するように働いていますが、何らかの理由でこの仕組みに異常が起こると、自分自身の細胞を外敵と勘違いして攻撃してしまふことがあります。その結果として起こる病気が「自己免疫疾患」です。

免疫の働きのしくみが、自己免疫疾患とは?

この疾患は若い人や体力のある人にも多いという特徴があります。若い人は免疫の力が強く、外敵が侵入すると勢よく攻撃して排除しようとしています。本来は良い反応ですが、免疫が強すぎるあまり、周囲の正常な組織まで傷つけてしまい、炎症を引き起こしてしまふことがあります。

自己免疫疾患による炎症は、免疫が「どの細胞を外敵と誤認するか」によって、体のさまざまな部位で起こります。たとえば、関節が標的になると「関節リウマチ」、心臓なら「拡張型心筋症」、骨髄では「骨髄線維症」といった具合に、攻撃された細胞の部位によって病名や症状が大きく変わります。

### ICHIHARA MEDICAL GROUP

## いちほらメディカルグループ

お問い合わせ いちほら病院 医療福祉連携室 ☎029 (877) 0170 (平日/9時~17時)

**いちほら病院** つくば市大曾根3681

医療法人 健佑会

- 医療機関
- いちほら病院
- 介護老人保健施設
- つくばリハビリテーションセンター
- リハビリ特化型サービス
- つくばフィジカルフィットネススタジオ
- 居宅介護支援
- いちほら病院介護支援センター
- 訪問看護
- いちほら訪問看護ステーション
- 訪問リハビリテーション
- いちほら病院訪問リハビリテーション
- 認知症共同生活介護
- グループホーム ファミージュ

**社会福祉法人 健誠会**

特別養護老人ホーム

- シニアガーデン(つくば市大曾根)
- シニアガーデンアネックス(つくば市水守)
- シニアガーデン別館(つくば市大曾根)
- 永福南社会福祉ガーデン(東京都杉並区)
- 南麻布シニアガーデンアリス(東京都港区)

障害者施設

- つくば総合福祉センター(つくば市水守)
- 六本木ヒルサイドホーム(東京都港区)
- 永福南社会福祉ガーデン(東京都杉並区)
- 港区立障害者支援ホーム南麻布(東京都港区)

居宅介護支援

- シニアガーデンアネックス居宅介護支援事業所(つくば市水守)

医療と介護の連携で24時間365日の安心を。あなたらしい、穏やかな暮らしを支えます。

2026年9月オープン

**介護医療院 新たな介護保険施設**

**つくばメディケアセンター**

「長期療養のための医療」と「日常生活上の支援」を一体的に提供します。

介護付有料老人ホーム **つくばメディケアレジデンス** (つくば市大曾根)

上質で快適な **シニアライフ**